



青森県感染症発生情報 (2017年第45週)

I 第45週の発生動向 (2017/11/6~2017/11/12)

1. 手足口病については、**上十三保健所管内で警報**が継続しています。上十三保健所管内では、定点当たり報告数が2週連続で増加し、県全体の報告数の約6割を占めています。県全体の定点当たり報告数が過去5年間の同時期と比較してかなり多くなっていますので注意が必要です。
2. **A群溶血性レンサ球菌感染症**については、県全体の定点当たり報告数は第42週以降増加が続いており、過去5年間の同時期と比較してやや多くなっていますので注意が必要です。
3. **流行性耳下腺炎**については、県全体の定点当たり報告数が過去5年間の同時期と比較してかなり多く、特に三戸地方+八戸市保健所管内と上十三保健所管内で定点当たり報告数が他保健所管内より多い状態が続いていますので注意が必要です。
4. インフルエンザの迅速診断キットによる型別の報告はA型14人、B型1人でした。

II 第45週五類感染症定点把握

※記載データは、速報値です。

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

		東青 (東地方保健所+ 青森市保健所)		中南 (弘前保健所)		三八 (三戸地方保健所+ 八戸市保健所)		西北 (五所川原保健所)		上北 (上十三保健所)		下北 (むつ保健所)		青森県計		前週からの 増減	
		数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		
小児科 内科	インフルエンザ	3	0.23	6	0.40	3	0.20			3	0.33			15	0.23	5	
	RSウイルス感染症	9	1.13	6	0.67	5	0.50	11	2.20	1	0.17	1	0.25	33	0.79	-2	
小児科	咽頭結膜熱	1	0.13	2	0.22	3	0.30	1	0.20			1	0.25	8	0.19	-4	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10	1.25	18	2.00	17	1.70	11	2.20	4	0.67			60	1.43	16	
	感染性胃腸炎	27	3.38	28	3.11	21	2.10	9	1.80	1	0.17	13	3.25	99	2.36	25	
	水痘	1	0.13	2	0.22	6	0.60	4	0.80	4	0.67	11	2.75	28	0.67	7	
	手足口病	13	1.63	7	0.78	22	2.20	2	0.40	70	11.67	5	1.25	119	2.83	-2	
	伝染性紅斑	1	0.13	1	0.11									2	0.05	2	
	突発性発しん	4	0.50	4	0.44	6	0.60			2	0.33			16	0.38	5	
	百日咳																-1
	ヘルパンギーナ	10	1.25	1	0.11	4	0.40					1	0.25	16	0.38	5	
	流行性耳下腺炎					17	1.70	1	0.20	13	2.17	1	0.25	32	0.76	4	
眼科	急性出血性結膜炎															0	
	流行性角結膜炎	1	0.50					2	2.00					3	0.27	-1	
基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0	
	クラミジア肺炎															0	
	細菌性髄膜炎															0	
	マイコプラズマ肺炎			1	1.00	3	3.00	2	2.00			3	3.00	9	1.50	4	
	無菌性髄膜炎															0	

は警報、は注意報。「空欄」:患者報告無し。

感染症の窓

アメーバ赤痢 (五類全数把握対象疾患)

アメーバ赤痢は赤痢アメーバ(*Entamoeba histolytica*)と言う原虫による感染症です。海外渡航者にもみられますが、国内の福祉施設での集団感染、男性同性愛者間での感染がより多く報告されています。アメーバ赤痢は感染した人が排泄する便中の赤痢アメーバに汚染された飲食物を介しての経口感染と、性的接触による接触感染(糞口感染)による感染経路があります。感染すると、大腸炎や発熱を伴う肝膿瘍を引き起こします。

全国では2012年から2014年にかけて患者報告数の増加が続き、青森県でも2012年から2015年にかけて増加が続き、2015年に最も多い12例の患者が報告されました(図1)。青森県内では2006年1月から2017年10月末現在までの間に53例の患者報告があり、感染地域は国内が45例(85%)を占めました。国内感染者の感染経路については、性的接触、経口感染ともに12例(27%)、不明が21例(47%)となっています(図2)。また、年代別では40歳代~50歳代の患者が35例(66%)を占め、男女別では男性が41例(77%)を占めています。

アメーバ赤痢を予防するワクチンはありません。経口感染を予防するため、食事の前に手を洗い、十分加熱調理してあるものを食べましょう。また、感染者との性的接触には注意が必要です。

○詳しい情報はこちらをご覧ください [アメーバ赤痢とは\(国立感染症研究所HP\)](#)

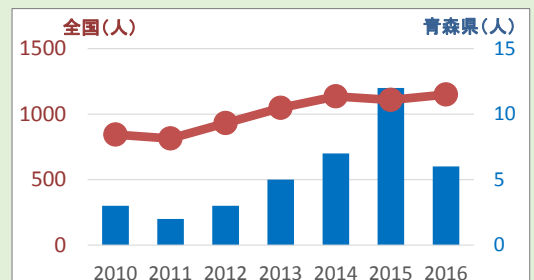


図1 全国と青森県におけるアメーバ赤痢患者報告数(2010年~2016年)

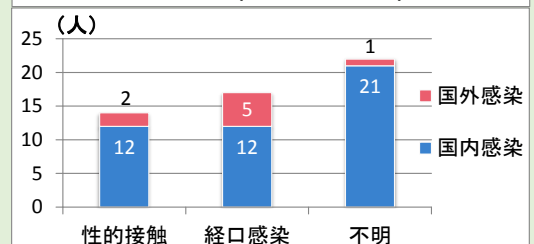


図2 青森県における感染経路・感染地域別患者報告数(2006年1月~2017年10月)

※感染地域・感染経路については、推定を含む

III 全数把握対象疾患

- ・結核（二類全数把握対象疾患）：青森市1人、むつ2人 (2017年計:259人)
- ・水痘（入院例）（五類全数把握対象疾患）：弘前1人 (2017年計:2人)

IV 病原体検出情報

報告はありませんでした。

V 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況 (2017年第42週～2017年第45週)

週	期 間	東青 (東地方保健所+ 青森市保健所)	中南 (弘前保健所)	三八 (三戸地方保健所+ 八戸市保健所)	西北 (五所川原保健所)	上北 (上十三保健所)	下北 (むつ保健所)
42	H29.10.16 ~ H29.10.22	腸管出血性大腸菌 感染症3人	梅毒1人			つつが虫病1人	
43	H29.10.23 ~ H29.10.29	カルバペネム耐性 腸内細菌科細菌感 染症1人 梅毒1人		つつが虫病1人			
44	H29.10.30 ~ H29.11.5	アเมอร์バ赤痢1人 侵襲性肺炎球菌感 染症1人		つつが虫病1人			
45	H29.11.6 ~ H29.11.12		水痘(入院例)1人				

VI 結核(二類全数把握対象疾患) (2017年第42週～2017年第45週) (人)

週	期 間	東青 (東地方保健所+ 青森市保健所)	中南 (弘前保健所)	三八 (三戸地方保健所+ 八戸市保健所)	西北 (五所川原保健所)	上北 (上十三保健所)	下北 (むつ保健所)
42	H29.10.16 ~ H29.10.22	1	2	3	1		
43	H29.10.23 ~ H29.10.29	1	1	3			1
44	H29.10.30 ~ H29.11.5					2	
45	H29.11.6 ~ H29.11.12	1					2

Ⅶ 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国（2017年第1週～2017年第44週までの累計）

分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокクス症	オウム病
累積報告数	19155	7	124	3657	34	13	268	246	22	11

分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	回帰熱	コクシジオイデス症	ジカウイルス感染症	重症熱性血小板減少症候群	ダニ媒介脳炎	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎
累積報告数	8	1	3	86	2	4	128	223	314	1

分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類
疾病名	ブルセラ症	ポツリヌス症	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症
累積報告数	1	3	54	18	1	1529	40	906	246	1412

分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）
累積報告数	572	12	170	458	1165	48	304	23	2603	255

分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症
累積報告数	4813	112	108	66	80	188	21

青森県（2017年第1週～2017年第45週までの累計）

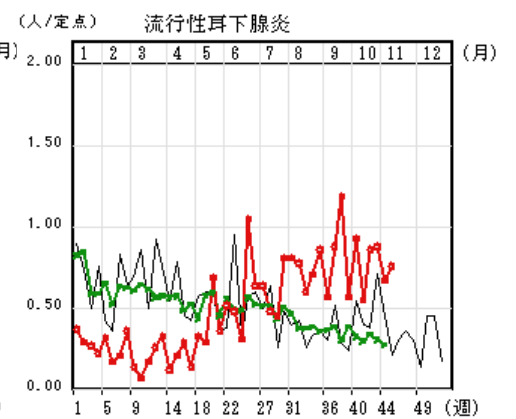
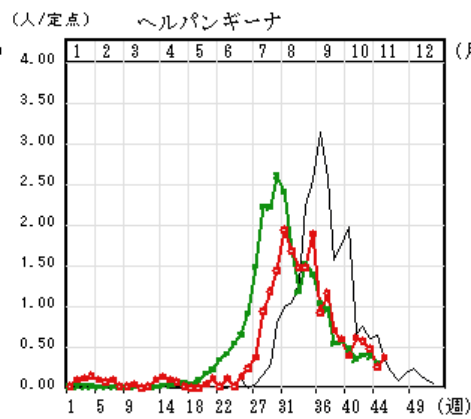
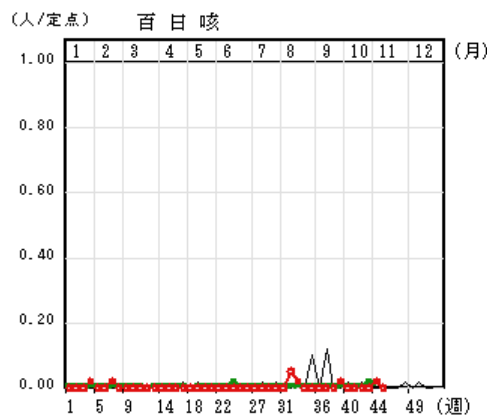
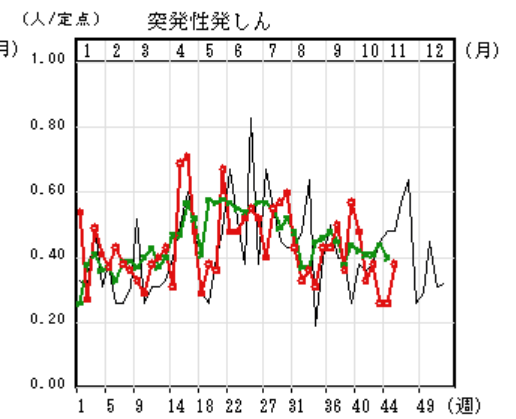
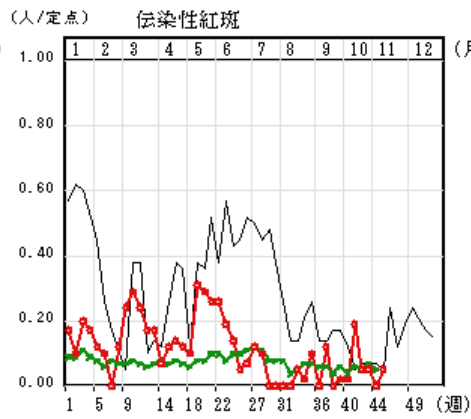
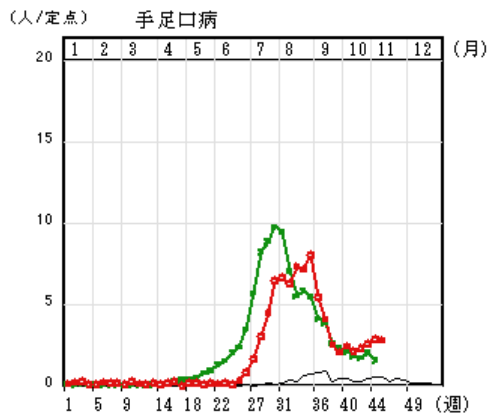
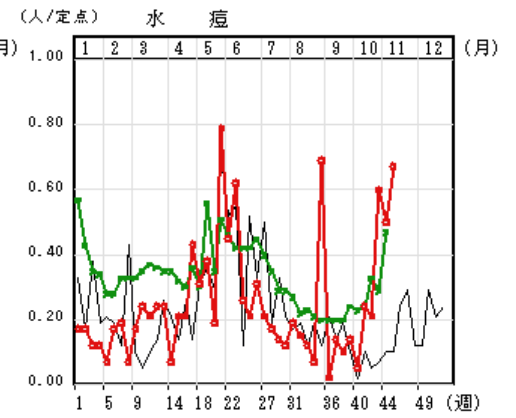
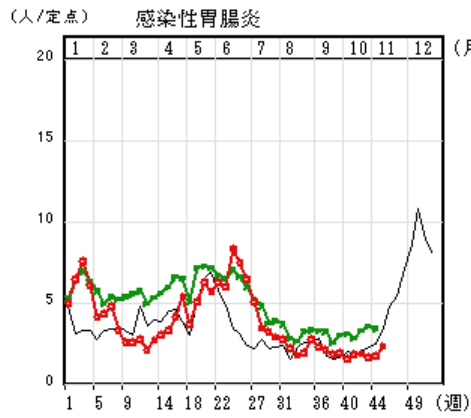
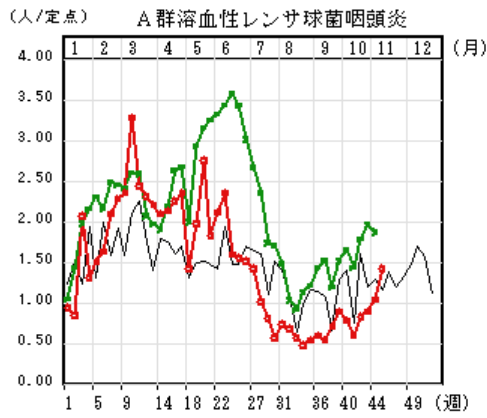
分類	二類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	E型肝炎	A型肝炎	つつが虫病	デング熱	レジオネラ症	アメーバ赤痢	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病
累積報告数	259	31	7	2	13	1	8	5	17	1

分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	破傷風
累積報告数	2	5	1	9	2	58	1

Ⅷ インフルエンザ・小児科定点把握対象疾患週別推移（2017年第45週、ただし全国は前週）

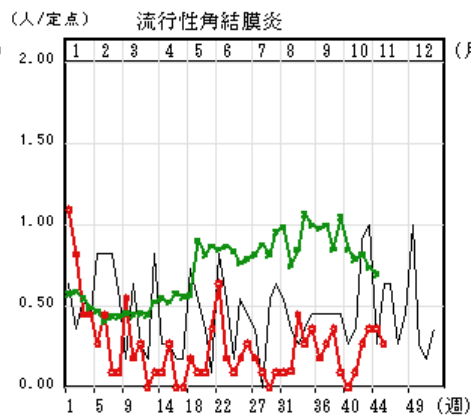
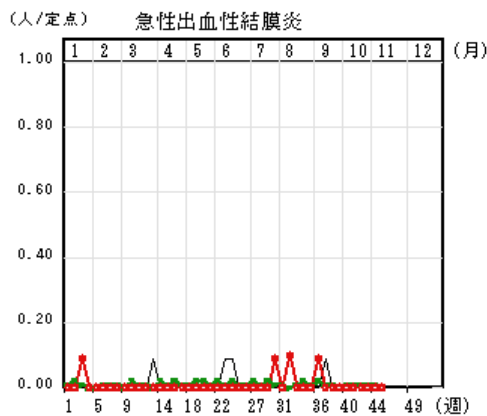
グラフの説明 ○—○は2017年青森県、——は2016年青森県、×—×は2017年全国





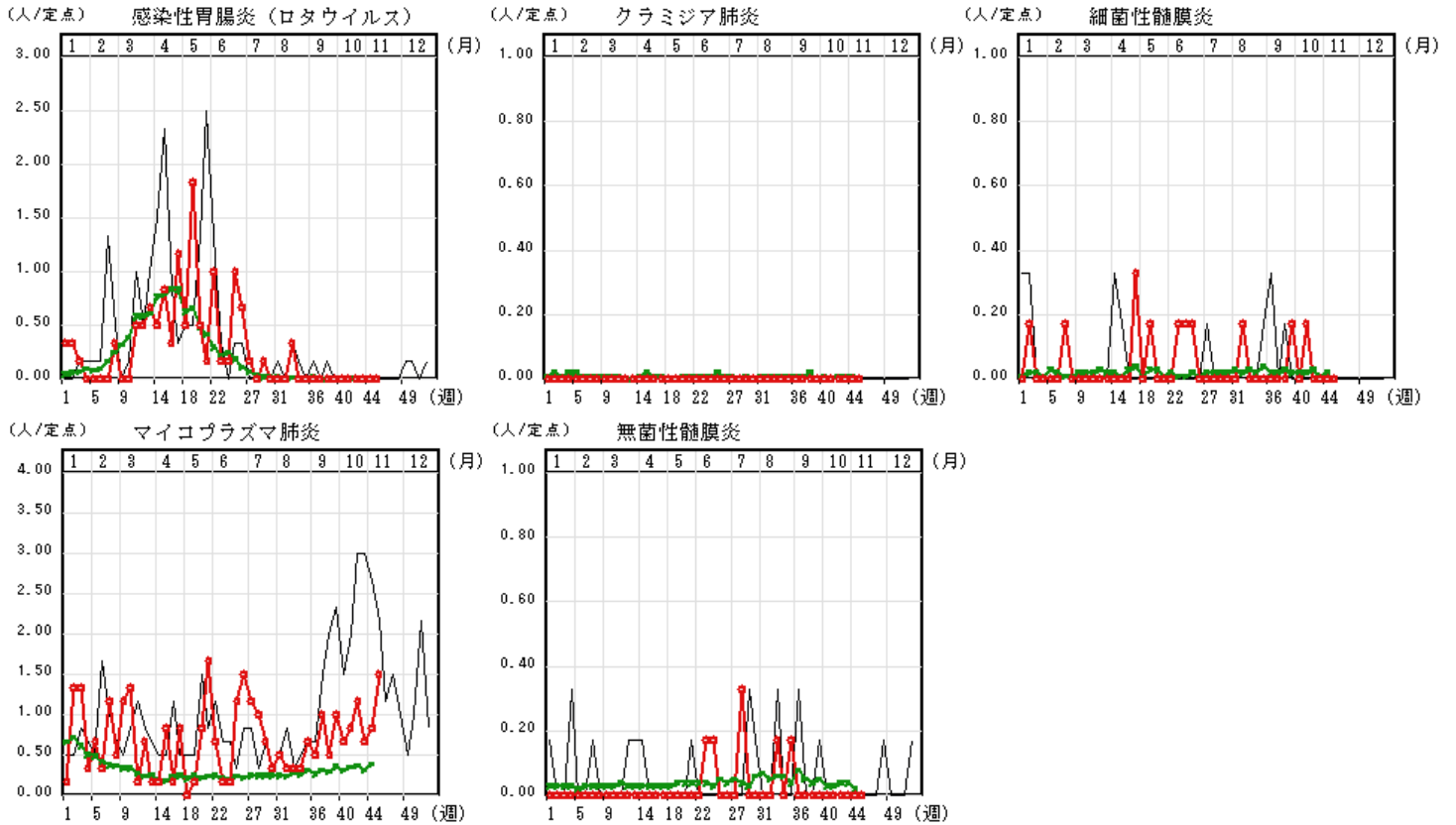
IX 眼科定点把握対象疾患週別推移 (2017年第45週、ただし全国は前週)

グラフの説明 \circ — \circ は2017年青森県、—は2016年青森県、 \times — \times は2017年全国



X 基幹定点把握対象疾患週別推移（2017年第45週、ただし全国は前週）

グラフの説明 ○—○は2017年青森県、——は2016年青森県、 ×—×は2017年全国



XI 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

平成29年第45週

報告はありませんでした。

平成29年報告件数及び発症者数

施設種別	月(週)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計 (施設別)
		1-4週	5-8週	9-12週	13-17週	18-21週	22-25週	26-30週	31-34週	35-38週	39-43週	44週	
介護・老人福祉関係施設	件数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	発症者数	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
児童・婦人関係施設等	件数	1	2	1	0	2	0	0	0	1	0	0	7
	発症者数	13	48	14	0	44	0	0	0	15	0	0	134
障害関係施設	件数	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	発症者数	0	43	0	38	0	0	0	0	0	0	0	81
その他施設	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	発症者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計(月別)	件数	1	4	1	1	2	0	0	0	1	0	0	10
	発症者数	13	103	14	38	44	0	0	0	15	0	0	227